

# 助産師教育

NEWS LETTER

公益社団法人

全国助産師教育協議会

Japan Society of Midwifery Education

No.80 2013. 9. 25



## ICM助産師教育モデルカリキュラム（2012） の視座に立ち、その教育力を考える

全国助産師教育協議会会長

金沢大学大学院医薬保健学総合研究域・助産学教授 島田 啓子

近年、私たちは臨床や地域でどれだけ自分は“助産師です”と、呼称して実践しているのでしょうか。教育面でも助産専門職の教育力が問われているように思います。また、ICMの「助産師教育のモデルカリキュラム（2012）」を通して現行の助産師教育を再考する機会ではないでしょうか。助産師教育の標準レベルとは何か、国内外で活動できる助産師の養成も助産師教員の役割なら、ICMモデルは本会員校に共通した標準的教育内容を検討するときに参考になります。

助産師の基礎教育で習得した実践力は、卒後の新人助産師の研修に連結・応用できることが望ましく助産師の生涯教育の起点とも言えます。同時に、高度な助産実践能力の推進と助産師のキャリアラダー（助産実践の習熟段階）について協議している関係団体の2つの検討会は、卒業時の習得事項にある「助産師のアイデンティティ」教育と併行して学習者に「キャリアパス」を意識づけるものです。

助産師教員の各自が専門職者を育成する役割を認識し、洗練された教育力を醸成することが、助産師養成機関の約70%を占める本会の喫緊の課題でもあります。助産師教員の資質と専門能力について、ジョイス・トンプソン先生が論述された資料とICMの

モデルカリキュラムを各自校の教育内容と照合しながら、日本の助産師教育のスタンダードについて構築し、教育力の洗練をする必要があります。

昨今の助産師教育の課題の一つは、実習施設の確保困難であり、それは卒業生の助産実践力の脆弱さを反映しているように思います。助産師教員や臨床指導者は、ハイリスク母児にも対応できる基本的な臨床判断力や、多様なニーズに対応できる倫理的な感度を研ぎ澄ませる能力を習得できる「教育力」が求められます。その教育力の課題として、先ず、教員が学習者と目標を共有すること、そして成人学習を前提にした学習支援に軸足を置くこと、さらに学習成果について評価方法を再考し、その評価から目標達成できているか内省してポジティブ経験を積める学習環境を提供できること、が挙げられます。

この課題に向けて、微力ながら会長再任された重責を痛感する現在です。

「浅い川はどんなに水流が激しくとも、石を洗うだけで、その石を流すことはできない（一部引用：詩集「たいまつ」）。石を洗い流すような、深い川になるよう、ICM声明の視座に立って助産師養成の教育力を一考してみませんか、忌憚のないご意見をお寄せください。

|               |   |
|---------------|---|
| 扉 .....       | 1 |
| 教育・活動報告 ..... | 2 |
| わかばの部屋 .....  | 8 |
| お知らせ .....    | 9 |

|             |    |
|-------------|----|
| トピック .....  | 10 |
| 理事会報告 ..... | 12 |
| 編集後記 .....  | 14 |

## 平成 25 年度 定時社員総会報告

庶務総務担当理事 神奈川県立保健福祉大学 村上明美

今年の夏は猛暑や集中豪雨が相次ぎ、不安定な気象による災害も危惧されております。皆様におかれましては体調など崩されませんよう、どうぞご自愛ください。

さて、第4回（通算49回）定時社員総会が、6月14日（金）・15日（土）に名古屋市立大学桜山キャンパス（愛知県）において開催されましたので、概要を報告いたします。

総会には、正会員135校、総正会員数270名のうち261名の出席（本人出席158名、書面出席103名）がありました。

冒頭の会長挨拶では、島田啓子会長より、公益社団法人として新体制で活動した2年間を振り返り、3つの公益事業の成果とともに、新たに設立した助産師教育研修研究センターにおいて5月から研修が開始されている経緯が報告されました。また、これからの本協議会の課題として、国内外の助産師教育の動向を感知しながら、日本の助産師教育力を洗練し、助産実践の質向上を目指すことが示されました。

ご来賓の挨拶では、文部科学省高等教育局医学教育課看護教育専門官の石橋みゆき様から「高等教育における助産師教育の動向」について、厚生労働省医政局看護課教育体制推進官の斉藤綾子様から「平成26年度版助産師国家試験出題基準の改定」について、厚生労働省雇用均等・児童家庭局母子保健課の小林仁美様から「母子保健の動向と助産師の役割」について、今日的な話題を提供していただきました。

総会議長には安達久美子氏と葉久真理氏が選出され、議長より議事録署名人に井村真澄氏、志村千鶴子氏が推薦され承認されました。

まず、各委員会担当の理事より平成24年度委員会活動が報告され、続いて柳原地区長総括（北海道・東北地区長）より平成24年度地区活動が報告されました。これら平成24年度事業報告は過半数を持って承認されました。

次に、島田真理恵会計担当理事および本会顧問税理士より平成24年度収支決算の報告が、小田切房子監事より監査報告がありました。平成24年度収支決算及び監査報告は過半数をもって承認されました。

続いて、村上明美庶務・総務担当理事より平成25年度事業計画の報告があり、島田真理恵会計担当理事より平成25年度予算の報告および説明がありました。

最後に、役員改選について渡邊典子選挙管理委員長より平成25・26年度役員選挙の経緯と選挙結果

の報告がなされました。その後、議長より選挙結果の審議が諮られ、異議なく承認されました。新たな役員メンバーは以下の通りです。

理事：

井村真澄（日本赤十字看護大学大学院）、大石時子（東京医療保健大学大学院）、我部山キヨ子（京都大学大学院）、北川真理子（名古屋市立大学大学院）、倉本孝子（愛仁会看護助産専門学校）、佐藤香代（福岡県立大学）、島田啓子（金沢大学大学院）、高田昌代（神戸市看護大学）、高橋順子（四国大学）、村上明美（神奈川県立保健福祉大学）

監事：

熊澤美奈好（亀田医療技術専門学校）、村上睦子（母子保健研修センター助産師学校）

（五十音順、敬称略）

役員承認後、速やかに新役員による理事会が開催され、島田啓子氏が平成25・26年度期会長に引き続き選出されたことが報告されました。

本年度は、2日目に公益社団法人日本看護協会常任理事の福井トシ子様より「助産師のキャリアパス・クリニカルラダーの視点から助産師教育に求めること」と題してご講演をいただきました。臨床助産師の実践能力を認証していく新たな取り組みについて、大変興味深いお話を伺いました。

2日目午後の全体報告会では、地区別検討会と課程別検討会で討議された内容が報告されました。どちらの検討会もそれぞれの会員校が抱える課題の共有ができ、活発に討議された旨の報告がありました。また、本年度の地区長総括には、安達久美子東京地区長が選出されました。

最後に、本年度の全国助産師教育協議会研修会の担当は北海道・東北地区であり、平成26年2月22日（土）・23日（日）に東北大学（宮城県）にて開催される予定であることのお知らせがありました。

総会以降、新たな役員で理事会が運営されることになります。前任者からの円滑な引き継ぎを心がけ、事業活動に支障が生じないように理事一同、尽力していく所存ですので、これからも会員の皆様には、本会の活動にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

なお、今回のご挨拶やご講演の資料は、会員の皆様にご覧いただけるよう本会ホームページに掲載していますので、ご希望の方はご参照下さい。

## 「新卒助産師研修ガイド」の作成経緯と活用への期待

公益社団法人 日本看護協会 福井 トシ子

厚生労働省は、新人看護職員が基本的な臨床実践能力を獲得するため、医療機関等の機能や規模に関わらず、新人看護職員を迎えるすべての医療機関等で新人看護職員研修が実施される体制の整備を目指し、平成21年4月30日に本検討会を設置し、同年12月25日に中間まとめ(以下「中間まとめ」という。)及び「新人看護職員研修ガイドライン」を提示した。としている。

筆者は、新人看護職員研修に関する検討会助産師ワーキンググループ委員であったが、ワーキンググループで検討する課題は、技術指導例を示すというものであった。少子化の影響や、産科医の不足、周産期医療領域の機能分化によって助産師が置かれている状況、特に一般病院における産科の混合病棟の問題、医療機関に入職する新人助産師数などが新人助産師研修に及ぼす影響について、検討を行うことの必要性について述べたものの、検討はされなかった。

報告書にある、「新人助産師研修については、多くの場合、新人看護職員研修と同様の施設において行われていること等から、研修の理念、基本方針、研修体制、指導者の育成等については、新人看護職員研修と同様であると考え」には、疑義がある。

妊娠が順調に経過できるように生活の調整を支援し、妊産婦と胎児、新生児の2つの命を預かる助産師という資格、業務内容、資格を得るまでに受けてきた教育を、「新人看護職員と同様であると考え」、新人助産師研修を行うということは、助産師に求められる、知識や技術、ケアリングを主とする態度をどのように捉えればよいのか、疑問に思った。

周産期領域のマネジメント上の課題が、現状を複雑にしているとも言える。医学モデルの中に健康モデルが混在している状況で、助産師は助産実践能力を培っていかなければならない状況にあるが、この課題を解決するには、様々な問題がはらんでいる。しかし、このような状況にあるからこそ、新人看護職員と同様の研修と位置付けるのではなく、新人助

産師研修のあるべき姿を示す必要がある。

どのような機能をもつ医療機関に就職しても、標準的な新人助産師研修を受けることができ、その上に助産実践を積み重ね、助産師業務を担うことができる助産師の育成をしていくことが、このような少子化の時代だからこそ、全ての妊産婦と新生児に助産師のケアを提供するという理念のもとに新人助産師研修が位置づけられなければならない。

「新人看護職員研修と同様の施設の中で教育が行われるので、理念や基本方針、研修体制が同じ」ということは、看護師と同じ研修でよいという意味にとられかねない。もちろん看護技術の土台の上に助産技術があるため、看護師と同様の研修を受けることもある。しかし、新人看護師研修理念、新人看護師研修の基本方針も新人助産師研修は同様、ということにはならない。全ての妊産婦と新生児に助産師のケアを提供するという前提に立った、新人助産師研修の理念、基本方針が明確にされるべきである。

新人助産師が新人看護師と同様に研修を受け、助産基礎教育の上に助産実践が積み重ねられていく環境が乏しくなっていること、分娩の集約化が進んでもマンパワーの確保が十分でないことから、新人助産師の指導体制は十分ではなく、新人助産師の置かれている環境はリスクが高いばかりか、複雑であること。産科病棟の混合化によって、新人助産師が1年間に分娩介助できる件数は限られていること。助産学生の実習があると、新人助産師の分娩介助件数はさらに少なくなるという現実があるということ。院内助産システムを推進しようにも、助産師を取り巻く複雑な、場の環境が推進を阻んでいること。などの実態を踏まえた新人助産師研修理念、基本方針、研修体制、指導体制の在り方を示すことが必要なのである。

理念や基本方針、研修体制が示されなければ、新人助産師の研修が保証されるということにはならない。助産師という資格をもち、看護師の資格も有し



ているからと、混合病棟で産婦の分娩進行の観察を行いながら、他科の患者の観察も行うということが余儀なくされているという実態を踏まえれば、検討会報告書にある「新人看護職員が基本的な臨床実践能力を獲得するため、医療機関等の機能や規模に関わらず、新人看護職員を迎えるすべての医療機関等で新人看護職員研修が実施される体制の整備を目指し」という状況をいかにして、つくるかが求められている。

新人看護職員の臨床実践能力の向上に関する検討会報告書（平成16年厚労省）では、新人看護職員研修の考え方を3つあげている。1. 新人看護職員研修は、看護実践の基礎を形成する。2. 医療機関の全職員に対する組織的な研修の一環として位置づけられるべき3. 多重課題を抱えながら複数の患者を受け持ち、安全に看護ケアを提供するための看護実践能力を強化することを主眼とするというものである。1. 2. は、新人助産師研修であっても同様であるが、3. については、多重課題を抱えながら母子の2つの命を預かる環境では、助産診断をして助産師自らの判断で分娩をマネジメントするということへの危惧がある。新人助産師のみならず、新人看護師の研修の考え方も多重課題を抱えながら、複数の患者を受け持つのは実態であるが、この状況の危うさは多に課題認識とすべきではないだろうか。むしろ、マネジメントはどのようにあるべきか、多重課題が、新人看護職員の研修を実施するうえでどのような状況を生むのか、命題をひも解く必要があるのではないだろうか。

分娩が進行している産婦に助産師はケアリングを実践する。助産基礎教育でアイディンティティの基

礎を形成し、臨床で助産実践を積み重ねて助産師としてのアイディンティティの確立へ向けていくのである。このような環境が提供されることを、新人助産師研修の中に明確に位置付け、保証されなければならない。

以上のことから、「日本看護協会編 新卒助産師研修ガイド」を作成した。このガイドを踏まえたうえで、「助産実践能力習熟段階（クリニカルラダー）活用ガイド」も作成した。新卒助産師研修ガイドと併用して活用していただきたい。新卒助産師研修とその後の継続教育をととして、院内助産が自信を持って担当できる助産師を育成し、妊産婦や新生児へのケアの質を上げ、「助産師をずっと続けたい」という助産師の育成に寄与したいものである。

本原稿は、日本看護協会出版会「看護」（2012年10月号）に掲載された原稿の改変である。

#### 参考資料

<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r985200000128o8-att/2r985200000128vg.pdf>

#### 参考文献

福井トシ子（2012）：「新卒助産師研修ガイド」策定の経緯と意義，看護，64（12），p.70-72.

一般社団法人日本看護学校協議会共済会では、助産師、保健師、看護師、准看護師の皆さまのための各種補償制度をご用意しているほか、悩み相談窓口等の福利厚生制度を備えています。下記フリーダイヤルまで資料をご請求ください。



0120-863755

<http://www.e-kango.net/>

一般社団法人 日本看護学校協議会共済会

## 第7回 近畿ブロック助産師学生交流会 報告

近畿地区 地区長 秋 田 浩 子

全国助産師教育協議会【第7回近畿ブロック助産師学生交流会】が、平成25年4月27日に奈良県にある畿央大学で行われ、参加者は、学生324名、教員47名、大学・専攻科・専門学校等23校が集まり、晴天のもと盛大に開催されました。

基調講演では、「人間として、専門職として倫理観を身につけよう」をテーマに、聖路加看護大学大学院教授であり聖路加産科クリニック副所長の堀内成子先生に御講演いただきました。「助産師は黒子に…」とのメッセージを受け、あらためて助産師の役割について考える機会となりました。そして、堀内先生のクリニックのご紹介やペリネイタル・グリーフケアのビデオ映像に、学生たちは心を揺り動かされて聞き入っていました。続いての交流会では、立命館大学、生存学研究センターマイノリティ研究プロジェクト・プロジェクトマネージャーの梁陽日先生に学生交流会を担当していただき、「助産師を目指す仲間とともに、私から始まるエンパワメント」をテーマにし、エンパワメントを高める仲間づくりのあり方など参加型講義を通して学び、驚きや気付きの多い楽しい会となりました。

交流会後のアンケート結果から、研修会の運営や研修時間について90%が良いと答えていましたが、開催場所については、交通が不便・近畿の中心で行ってほしいなどの意見が50%と半数を占め、次回開催時の検討課題と考えます。また、基調講演を聞いて、「倫理の話をもう少し聞きたかった」との学生の意見や、教員の意見として、主体的に考える思考を刺激していた」「学生には少し高度な話のように感じた」との意見もあり、学生にとってはやや難易度の高いものと推測されました。全体的には交流会に参加して、「面白く楽しかった」「参加型の講義はとてもわかりやすかった」「他校の学生と交流でき楽しかった」「自分自身のことについて考える時間が持てた」という肯定的な意見が多くみられ、学生交流会の目的は概ね達成されたのではないかと思います。

年々近畿地区においても助産課程を持つ教育機関が増えています。しかし各学校の学生数は数名から多くて20～30名と小規模な場合がほとんどです。助産師になる夢を待って集まった学生の皆さんの学びのスタートとして交流出来ることを目指し、今後も活動を続けていきたいと思っています。



## 助産学臨床指導者・専任教育研修会 報告

亀田医療技術専門学校助産学科 潮 田 千寿子

生涯教育研修委員会では、「助産学実習指導の人間関係力を育む」をテーマとして、平成25年2月11日、および、3月2日に研修会を企画しました。

残念ながら、3月2日の札幌会場での企画は、最少催行定員を確保できずに、開催を断念しました。

2月11日の神戸会場では、28名（臨床指導者5名、教員23名）の参加者を対象に兵庫県民会館で実施の運びとなりました。

講師には、NPO法人日本交流分析協会理事長の飯田國彦先生をお迎えして、講演およびグループワークの構成で実施しました。

飯田先生は、「自他への理解を助産に活かす」として、「交流分析活用の心の問題解決と人間関係力を向上」することを目的に、プログラムを構成してくださいました。

第1部の午前中の講義では、①助産師には何が求められるか、について、まずご講義くださいました。

助産師を取り巻く環境に始まり、当協議会のこともよくご存じの先生は、ミニマムリクワイメンツにも触れられ、また、倫理的感応力の重要性や、判断力、人間関係力についても示唆されました。またマザーリングマザーとしてのドゥーラとしての機能についても言及されました。

続いて、②自分を知り、他人を知ることでは、交流分析で用いられるエゴグラムの紹介がされ、「CP,NP,A,FC,AC」のそれぞれがもつ心の働きについて良い部分と逆に出る場合の傾向について、また、肯定的言語や否定的言語により相手に与える印象の違いについて説明してくださいました。交流分析の深さに、受講生は、深く傾きながら聞いていました。

続く③「ストローク（ふれあい）の改善」の部分では、受講生は母子のストローク（母親が無条件に受け入れてくれる）という基本的信頼感から全てが始まり、スキンシップが重要であることを再認識しました。グループワークでは、お互いに褒めあう、という少し照れくさいワークを行い、お互いがとても自己効力感に溢れた良い表情になりました。

④の対話分析と傾聴法では、まず「傾聴法」について詳細に説明していただき、その後、グループワークで実技練習をしました。テーマが好きな食べ物など、身近なものであるため、お互いに演習がしやすいようでした。

休憩をはさんで、午後からの第2部では、①エゴグラム分析を実際に行いました。分析の方法を初めから説明を受けることができ、なんとなく、わかっているつもりであったエゴグラムについて、全然理解していなかったことがわかりました。午前の講義で理解したように、高い自我や低い自我に着目して、肯定的な側面と否定的な側面の双方を読み、また、バランスを読むこ

とも重要であることがわかりました。そこから、交流分析の目標について説明がなされ、その場にふさわしい自我状態が、「自発的に」自在に使えるようになることが目標であること、そのためには低い自我状態の成長を図ることが大切である、という説明をいただきました。

また、最も高い自我でグループに分かれて、そのグループで話をする中で、自分と同じような考え方をする人たちと情報交換をすることで、「そうそう」という同意を得られました。

更に、②駆り立てている「ドライバー」からの解放、について説明されました。「ドライバー」の意味が当初はわかりませんでしたが、たとえば、「完全であれ」とか「急げ」など、自分がそのドライバーによって駆り立てられているもの、ということがわかりました。そのドライバーによる言葉や思いで学生と接してしまう恐れがあるのだということがわかりました。そのようなときの対応として、「自分のペースでいいんだよ」とか、「ありのままでもいいんだよ」という、ドライバーからの解放のアプローチも学ぶことができました。

すべてのプログラムをとおして、自己を向上させるプログラム構成となっており、しかも楽しいグループワークをすることができました。

受講生の感想としては、「実践で使える」、「ストロークシャワーが良かった」、「自分を知ることができた」、「楽しかった」、などの意見が多くみられました。また、シリーズで行ってほしいという意見もありました。

また、アンケートの結果としては、「とても役に立った」「役に立った」が100%という結果であり、受講生にとっても満足いただけた研修となりました。

途中、笑いあり、笑顔にあふれた楽しい研修会となりました。

末筆になりましたが、人間関係力を育むこと、そしてそれが助産や助産教育に活かされるのだということを、交流分析をもとに、とても丁寧に講演くださいました飯田國彦先生に心より感謝申し上げます。





## 助産師教育研修研究センターによるファーストステージ研修の開講

助産師教育研修研究センター担当理事

神戸市看護大学看護学部看護学科 教授 高田 昌代

助産師教育研修研究センターは、前会長の平澤美恵子先生をセンター長に迎え、事実上の船出となるファーストステージ研修が始まりました。ファーストステージ研修は、助産師教育に携わる若手の教員や臨床指導者が、助産実践力を基盤にし、助産観と教育観に裏付けられた教育力を養い、ひいては助産師教育全体の質の向上を図ることができるようになるために設置されました。広報の遅れがありましたが、会員校の皆様のご協力のもと、全コース履修者11名、科目履修者4名の研修生（教員12名、臨床指導者3名）からの参加希望があり、平成25年5月17日に開講式を迎えることができました。

平成25年度助産師教育ファーストステージ研修開講式は、文部科学省 高等教育局 医学教育課 看護教育専門官の石橋みゆき氏、公益社団法人日本助産師会 会長 岡本喜代子氏、公益社団法人日本看護協会 常任理事 福井トシ子氏、の3名の来賓にご臨席賜り、本研修に対する期待と研修生への暖かいエールを頂きました。本会からは、島田会長をはじめ6名の担当理事・役員・委員参列のもと、式次第に添って執り行われました。

その後、来賓の方々も含め、出席者全員で茶話会を行い、自己紹介、研修への参加動機、抱負、教育観についてなごやかに話し合いました。研修生からは、「日々の教育という仕事のなかで、これで良いのだろうか」と自問自答しているところにこの研修会の案内が来た。私のためにある研修会だと思った」「臨床実習で学生を受け入れる時に、教育する者としての関わりを考えたい」「多くの先生のお考えが聞けると思うと、ワクワクします」と、学びたいというエネルギーが伝わってきました。また、「2ヶ月に1回だけ金曜日を工面すれば良いだけで、受講しやすさも嬉しい」「自分から上司に交渉したところ、快く許可してもらえたので、後押しがあるようで頑張りたい」と、上司からの命令ではなく主体的に参加していました。茶話会は、親睦を図るとともに、ファーストステージ研修の意義について理解を深める機会となりました。石橋専門官にも、研修生の生の声を直接聞いていただく、貴重な機会にもなりました。

現在のところ、平澤美恵子先生（センター長）、村上睦子先生（母子保健研修センター助産師学校）、安達久美子先生（首都大学東京助産学専攻科）、大石時子先生（東京保健医療大学大学院）、片岡弥恵子先生（聖路加看護大学大学院）にご担当いただいた助産論、助産論演習が修了しました。研修生は、自らの助産観を見つめる作業をするなかで、研修生

は共に学び、気づき合う機会を「楽しさ」として経験し、講師の資料や講義の流れなど1つ1つが学びに繋がっていると話しています。

次年度研修計画は、研修センター運営委員会にて内容をより洗練して出す予定ですので、若手教員、臨床指導者の方々は、どうぞ参加のご準備をお願いいたします。



## 助産学生との関わりをとおして

京都光華女子大学 健康科学部看護学科 助教 寺坂 多栄子

私は助産師として13年間臨床の現場で勤務していましたが、恩師の勧めもあり教育の現場に進むことになりました。教育の道に進んだ理由として、助産師の仕事はやり甲斐があって楽しかったのですが、その一方で自分には助産学に対する理解や臨床の現場以外の経験が少なく感じ、未知の可能性も広げていきたいと思ったからです。今の職位を得るまでに助産学や母性看護学だけではなく他領域の教育にも携わってきました。臨床の現場で助産師一筋に勤務していた私は、他領域に関する知識の乏しさ、臨床と教育の相違を痛感し、また学生に質問されても根拠や理論に基づいた説明ができず、学生への指導方法に悩むことが多くありました。そんな時に職場の先輩から「教えようと思うのではなく、一緒に学ぶようにすれば良い」と助言をいただき、答えをただ教えるのではなく勉強方法を一緒に考えることが必要なのだ学びました。その後は、困った時にこの言葉を思い出しながら、学生とともに学ぶようにしてきました。

現在勤務している京都光華女子大学は、今年で看護学科開設3年目となり、助産選抜試験で合格した1期生の授業がこの4月から開始されています。助産診断・技術学Ⅰ、助産学概論の講義が始まり、学生は常に事前学習を行った上で臨んでいます。また、講義では積極的に発言し、主体的な学習をするよう求められています。学生は「先生、もうだめです」、「先生、課題が多くて大変です」と言いながらも必死で課題をこなし、授業前には「教えて下さい」と未熟な私に頼ってきます。私は理論に基づいて指導できない未熟さを感じながらも、学生の身近な存在になり「一緒に学ぶ」ことを心がけています。一緒に学

ぶと学生が素直に自分の考えを伝えてくれ、私自身も新しい発見や学びとなります。教員間で学生について「教えたのに覚えていない」、「調べずに答えを求めにくる」と会話することがありますが、教員は学生自身の個性や能力を理解した上で、繰り返し学習の機会を与えるなど学生のやる気を損なわせないようにサポートすることが必要であると感じています。

私が教育で最も大切にしていることは、課題の多い学生の辛い気持ちを受容してあげることです。私は単なる「教える側」と「教えられる側」の関係だけではなく、人として気持ちを尊重できる教員でありたいと考えています。私は今、先輩に丁寧に指導を受けながら、恵まれた環境の中で教育に携わっています。自分のできることを1つ1つ増やしながら、これからも学生とともに学んでいきたいと思います。

この写真は、京都光華女子大学健康科学部看護学科の助産課程1期生です。これから、学生とともに京都光華女子大学の伝統をつくっていきます。



### ◎医学書院の助産師向け書籍

#### 乳幼児の発達障害診療マニュアル 健診の診かた・発達の促しかた 洲鎌盛一

健診にかかわるすべてのひとへ乳幼児の異常を早期にみつかるためのエッセンスとお母さんに伝えたい「発達を促すアドバイス」「家庭で気にかけてほしいポイント」を伝授!

●A5 頁130 2013年 定価2,625円(本体2,500円+税5%) [ISBN978-4-260-01026-9]

#### ナースのミカタ 小児看護

知っておきたい53の疾患 編集 右田 真

小児看護に必要な基礎知識とともに、知っておきたい53の疾患をわかりやすく解説。小児看護に携わるすべてのナースの必携書。

●B6 頁224 2013年 定価2,520円(本体2,400円+税5%) [ISBN978-4-260-01618-6]

#### マタニティ診断ガイドブック 第4版

編著 日本助産診断・実践研究会

本書は、日本助産診断・実践研究会が17年という歳月をかけて開発し、現場の声を反映しながら更新してきたマタニティ診断を、妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の4期に分類し解説したもの。臨床現場でも教育現場でも使いやすい。

●B6変型 頁240 2013年 定価2,625円(本体2,500円+税5%) [ISBN978-4-260-01715-2]

#### 新生児集中ケアハンドブック

原著編集 G.Boxwell/監訳 沢田 健・エクランド 源 稚子

英国の看護師が中心になって執筆したNICU看護のテキスト。エビデンスに基づいて、最新のトピックを体系的に解説。新人から認定資格を目指すナースまで広く役立つ1冊。

●B5 頁552 2013年 定価7,140円(本体6,800円+税5%) [ISBN978-4-260-01654-4]

医学書院

〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23 [販売部] TEL 03-3817-5657 FAX 03-3815-7804  
E-mail sd@igaku-shoin.co.jp http://www.igaku-shoin.co.jp 振替 00170-9-96693

消費税率変更の場合、上記価格は税率の差額分変更になります。



## お知らせ

「学生によるオレンジリボン運動（児童虐待防止の啓蒙活動）」  
に本協議会が協力することになりました。

深刻な児童虐待が急増する中、妊娠出産育児にかかわる医療  
系の学生には、児童虐待の予防・対策の重要性の理解を深め  
る契機にしてほしいとの強い要望があります。



# 新版 助産師業務要覧 第2版

助産師業務の根拠・原則から今後の活動展開までを網羅したリニューアル版、2巻組で登場！

## I 基礎編 福井トシ子 編 ●B5判 332頁 定価3,150円(税込)

教育・倫理・業務・組織管理などの法的根拠や原則論について  
学べる必携書。法令やガイドラインなどの資料も豊富です。

| 【主な内容】                        |                        |
|-------------------------------|------------------------|
| 第1章 助産師とは                     | 第6章 活動場所の特性と業務         |
| 第2章 助産師の教育                    | 第7章 組織管理               |
| 第3章 助産師と倫理                    | 第8章 助産師の業務改善と<br>今後の課題 |
| 第4章 助産師の業務と義務                 |                        |
| 第5章 リプロダクティブ・ヘルスに<br>かかわる助産実践 | ■巻末資料 1～19             |



## II 実践編 福井トシ子 編 ●B5判 340頁 定価3,150円(税込)

チーム医療・キャリアパス・院内助産システムといった今日のテー  
マを取り上げ、助産師業務や管理の具体的な方向性を示しています。

| 【主な内容】                 |               |
|------------------------|---------------|
| 第1章 国民の求める助産師像         | 第5章 助産師に必要な技術 |
| 第2章 助産師に求められる<br>チーム医療 | 第6章 助産業務管理    |
| 第3章 助産師のキャリア開発・支援      | 第7章 院内助産システム  |
| 第4章 助産師の業務             | 第8章 助産業務と経済評価 |
|                        | ■巻末資料 1～5     |



日本看護協会出版会

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-8-2 日本看護協会ビル4F

(営業部) TEL.03-5778-5640 FAX.03-5778-5650

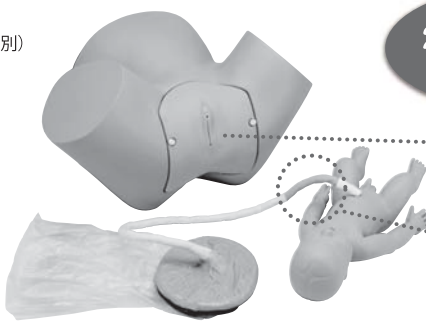
【コールセンター(ご注文) TEL.0436-23-3271 FAX.0436-23-3272】

<http://www.jnapc.co.jp>

## 分娩介助モデルセット (分娩用外陰部Ⅱ型)

LM-101B 標準価格 ¥520,000 (税別)

会陰保護から、胎児・胎盤の観察など  
分娩介助の一連の演習が可能です。  
卵膜剥離の確認もできます。



2013年3月より  
リニューアル

＊外陰部の素材が変わりました。  
伸びのよい耐久性に優れた素材になりました。

＊臍帯の結紮、切断ができます。

製造・販売元 株式会社 高研

札幌営業所 TEL(011)221-5888 / 仙台営業所 TEL(022)218-9540

東京営業所 TEL(03)3816-3500 / 名古屋営業所 TEL(052)950-6580

大阪営業所 TEL(06)6304-4854 / 福岡営業所 TEL(092)263-5101

※各種単品販売もごさいます。

\*\*\*\*\* [www.kokenmpc.co.jp](http://www.kokenmpc.co.jp)

## 妊婦と胎児を風疹から守りたい

国立感染症研究所 感染症疫学センター 多 屋 馨 子

2011年に海外から持ち込まれた風疹は、2012年に全国流行となりました。2013年に入って流行規模が大きくなり、2013年7月31日現在の集計で累積報告数は13,344人(暫定値)(図1-1)、人口100万人あたり104人となりました。これは昨年1年間の累積報告数(2,392人)の5.5倍にあたります。2013年のピークは昨年より早く5月であったと考えられますが、第30週現在、1週間の報告数は、昨年のピーク時(132人/週)より多い状態が続いています(図2)。

報告される患者さんの年齢は、約1割が小児、約1割が50歳以上で、残り約8割が妊娠・出産・育児年齢の20～40代です。この結果、2012年10月から2013年7月までに14人の赤ちゃんが先天性風疹症候群と診断されました。また、風疹脳炎や血小板減少性紫斑病を合併している成人もいて、決して子どもの軽い病気と侮るわけにはいきません。

風疹患者の男女差は大きく、男性が女性の3.3倍となっています(図3-1, 3-2)。この理由は、1977年8月に始まった風疹の定期予防接種制度で説明が可能です。1回接種を実線、2回接種を点線で示し、中学生以上で接種機会があった場合を青、幼児期に接種機会があった場合を赤、幼児期と中学生以上で1回ずつ接種機会があった場合を緑で示しました。

1962年4月2日～1979年4月1日生まれの女性(2013年4月1日現在34～50歳)は、女子中学生の時に、学校での集団義務接種であったため接種率が高く、ほとんど発症していません(図3-2)。一方、接種機会がこれまでに1回もなかった1979年4月1日以前に生まれた34歳以上の男性は多く発症しています(図3-1)。予防接種法が改正され、1995年4月から男女幼児と男女中学生が定期接種の対象になりました。しかし、保護者同伴で医療機関を受診して受ける個別努力義務接種に変更となったため、特に中学生の接種率が激減しました。そのため、1979年4月2日～1987年10月1日生まれの男女(2013年4月1日現在25歳6ヶ月～34歳)は接種率が低く、今年多く発症しています。また、1987年10月2日～1990年4月1日生まれの男女(2013年4月1日現在23～25歳6ヶ月)は、1～7歳半の時に風疹あるいは麻疹風疹おたふくかぜ混合ワクチン(MMR

ワクチン)の接種を受ける機会が1回ありましたが、接種を受けなかった人も多く、今年多く発症しています。1990年4月2日以降に生まれた人(2013年4月1日現在23歳未満)は、麻疹風疹混合ワクチン(MRワクチン)による2回目の定期接種の機会が与えられましたが、高校3年生相当年齢の時に2回目の接種機会があった1990年4月2日～1995年4月1日生まれの人(2013年4月1日現在19～23歳)と、中学1年生の時に2回目の接種機会があった1995年4月2日～2000年4月1日生まれの人(2013年4月1日現在14～18歳)は接種率が低く、今年風疹を発症している人が多くいます。一方、それより低年齢の子ども達は、ワクチンを2回受けている人が多いことから発症者も少なく、予防接種の成果と考えています。しかし、もし中学1年生と高校3年生相当年齢の時に2回目の定期接種の機会がなかったら、今年、中学・高校・大学で大規模な風疹の流行が発生していたと考えられますので、これもワクチンの成果と言えます。

妊婦健診では、必ず風疹の抗体価を測定します。妊娠中は風疹ワクチンあるいはMRワクチンの接種は禁忌のため、風疹HI抗体価が陰性あるいは1:16以下の低い値であった場合は、出産後早期の予防接種が奨められています。また、妊婦の家族や同僚がMRワクチンを受けて、妊婦と胎児を風疹から守って欲しいと思います。妊婦健診で抗体価が低かった場合、出産後産婦人科を退院するまでに接種をしている医療機関もあります。その時期に受けられなかったとしても、次の妊娠に備えて1ヶ月健診時には受けておいて欲しいと思います。なお、出産時に輸血を受けた場合は、輸血後3ヶ月以上経ってから受けることになります。

女性は妊娠前にMRワクチンを受けて、2か月間の避妊の後、妊娠を考えて欲しいと思います。妊娠前に十分な抗体を獲得しておけば、妊娠中に風疹の心配をしなくて済みます。さらに、胎盤を通して風疹の抗体が赤ちゃんにも移行しますので、生後6ヶ月頃までは赤ちゃんも風疹から守られることになります。助産師さんから妊婦さんへの一言を期待しています。

国立感染症研究所感染症疫学センターホームページ：速報グラフより <http://www.niid.go.jp/niid/ja/rubella-m-111/2132-rubella-top.html>

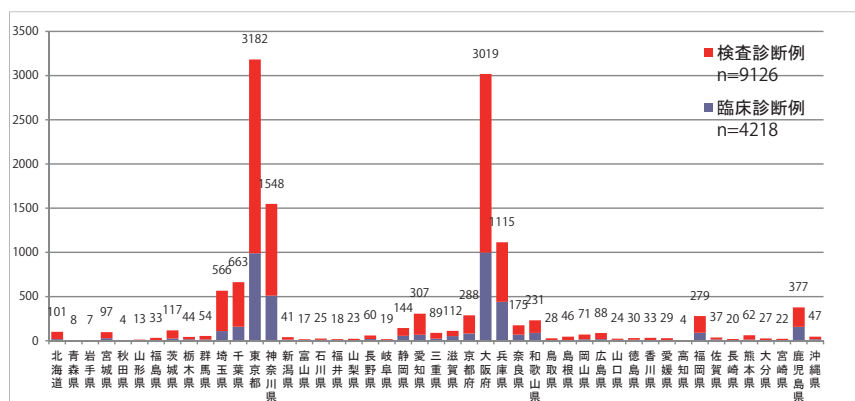


図 1-1 都道府県別累積風疹報告数 2013 年第 1 ～ 30 週 (n=13,344) 感染症発生動向調査 2013 年 7 月 31 日現在

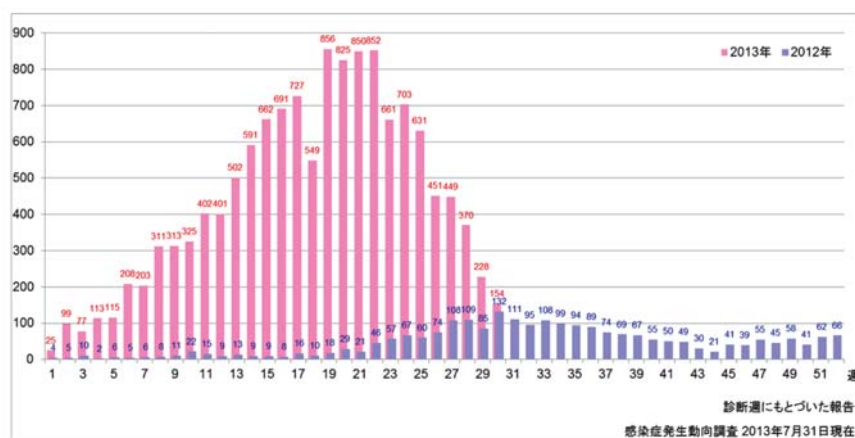


図 2 週別風疹患者報告数 (2012 年～ 2013 年第 30 週) 2012 年 n=2392, 2013 年第 1 ～ 30 週 n=13344

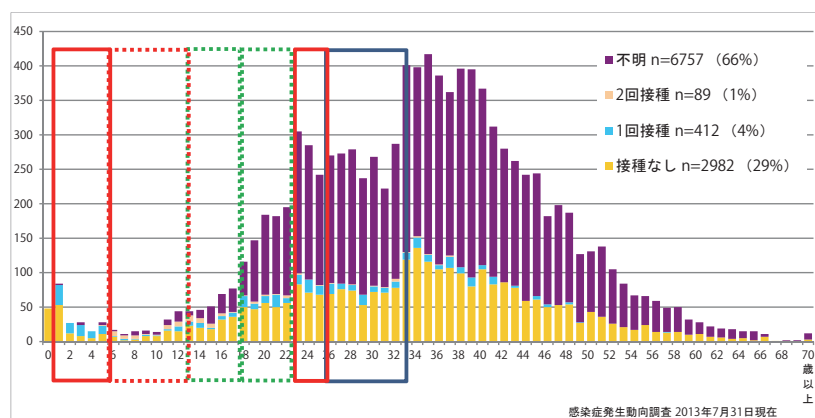


図 3-1 年齢群別接種歴別風疹累積報告数 (男性) 2013 年第 1 ～ 30 週 (n=10,240)

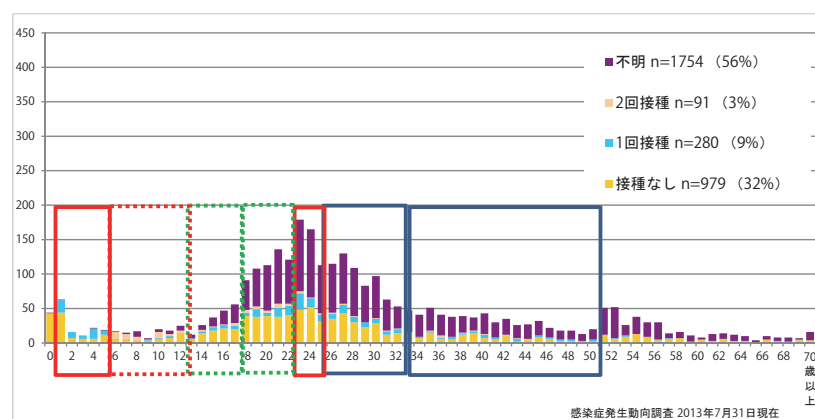


図 3-2 年齢群別接種歴別風疹累積報告数 (女性) 2013 年第 1 ～ 30 週 (n=3,104)



## 公益社団法人 全国助産師教育協議会 平成 24 年度 第 7 回理事会議事録

日 時：平成 25 年 3 月 9 日（土）11:00～16:00

場 所：本会事務所

出席理事：島田（啓）、北川、倉本、佐々木、佐藤（香）、  
島田（真）、高田、春名、村上

出席監事：小田切

出席幹事：佐藤（喜）、潮田

欠席理事：三島

欠席監事：丸山

出席理事：9 名 監事：1 名 幹事：2 名

書 記：潮田

### 議事次第

#### I 会長挨拶

---

#### II 報告事項

---

##### 1) 庶務・総務

- ①平成 24 年度第 1 回地区長会議事録の承認
- ②平成 24 年度第 6 回理事会議事録の承認
- ③平成 24 年度活動報告書
- ④ハローワークへの登録と応募状況

##### 2) 教育検討委員会

- ①教育課程検討小委員会
  - ・アンケート調査報告を検討中。回収率 29.1%
- ②教育方法検討小委員会
  - ・23 年度から取り組んでいたミニmam・リクワイアメンツの教育方法実態調査についてのまとめ
  - ・24 年度中心に実施しているミニmam・リクワイアメンツの卒業時到達度調査は分析中

##### 3) 教育評価委員会

- ・前回の理事会で検討した内容について委員会で検討中

##### 4) 資格・専門能力委員会

##### ①第 96 回助産師国家試験の検討結果

- ・厚労省からの依頼で 2 月 25 日の午前中までにまとめ、問題の適否について 3 題、検討が必要な問題を 3 題あげた。厚労省からお礼のメールが届いた。
- ・来年度は中国・四国地区および九州・沖縄地区が担当である。

##### 5) 将来構想・組織強化委員会

###### ①将来構想小委員会

- ・ファーストステージ研修の募集要項はすでに機関校に届けている。
- ・内容は HP に提示している。
- ・実習のみの科目履修はないかの問い合わせもある（ないと回答）。
- ・個人会員には、3 月のニュースレターに同封するか郵送するか検討する。
- ・担当講師には依頼中。承諾後、HP に掲載
- ・会場は、2 階研修室、とわ助産院を検討中

##### 6) 生涯教育研修委員会

- ・2 月 11 日に神戸会場にて 28 名で開始した。
- ・3 月に企画していた札幌会場は、人数が集まらないため中止した。
- ・5 日間研修報告書を総会、実習先等に配布できるようにする。

##### 7) 地域・国際委員会

- ・諸外国の教育事情を HP に掲載した。
- ・ICM での発表については、調査協力頂いた国にその意図を伝えておらず、却下となった。
- ・抄読会が 3 月 23 日にある。

##### 8) 社会貢献委員会

###### ①会員校の性教育実態調査結果

- ・教育機関でどのように受けているかという実態調査は初めてであり、とても重要なデータである。
- ・各学校での社会貢献であり、また公益社団法人としても公益性がある。

②津波被災校に対してメールを配信した。

## 9) 広報委員会

### ①ニュースレター進捗状況

- ・78号を3月に刊行すべく検討中。79号まで発刊したあとは、次の委員会メンバーになるため、次期委員会がスムーズに動けるよう準備している。
- ・ロゴマークは、次回理事会前にメール会議で検討する。

## 10) 全国研修会

会場費が抑えられ、予算を返却予定。

### <意見交換>

- ・会場費が多少かかっても参加者を多く受け入れる検討が必要である。
- ・テーマにもよるが、東京のほうが参加者が多い可能性もある。
- ・早めに会場の確保が必要である。
- ・次年度は北海道・東北地区が担当

## Ⅲ 審議事項

## 1) 将来構想小委員会

### ①本会委員会等の活動における学会・雑誌発表に関する内規

- ・本会の委員会等で行った調査・研究についての申し合わせ事項を作成する。
- ・外部から依頼のあった調査等としては、理事会で検討する。実施後問題があれば、内容変更を行う。
- ・誌上報告、研究発表時には、事前に理事会に諮る。

### ②センター事務職員雇用

- ・事務採用予定者の面接を実施した。フルタイムでの採用希望であり、助産師会やNPO 評価機構なども含めて、勤務体制について考慮する。
- ・物品・機器類もそろえる必要があるため、センター費用として次年度予算で検討し、理事会に諮る。

## 2) 広報委員会

### ①ニュースレターの年間発行回数

- ・発行回数を年3回にして充実させる。HPを有効活用していく。
- ・ニュースレターは、会員人数分を送付す

る。

### ②ホームページ更新費の増額

- ・HPの更新は、現在月額2万円で更新費3回含む。したがって4回目以降は一回5,000円かかっている。
- ・次年度から年間12万円（コンサルタント料を含む）の増額請求が来ている。ちなみに1ヶ月で10回程度の更新がなされている。以前からみれば非常に多くなっている。
- ・年間契約内容等について案を出し、理事会で検討する。

## 3) 選挙管理委員会（平成25-26年度役員候補者一覧）

### 次期役員候補者

- ・3月1日締め切りで、理事9名、監事1名の推薦があった。
- ・北海道・東北地区からの推薦がなかったため、締切後に選挙管理委員長から地区長に連絡したところ、締切日を失念していたとのことであった。後日、会長宛に手紙で依頼がきた。
- ・行政書士に相談したところ、締め切りを融通することはありえないとの回答であった。
- ・締め切りを過ぎているため、北海道・東北地区からの地区長からの推薦は受け付けられない。選挙管理規程、行政書士からの意見をもとに、理事会決定とする。
- ・前回の理事会で、理事10名、監事2名とすることが決定事項となっているため、理事1名と監事1名を理事会で決定し総会で諮る。
- ・倉本理事が、理事会推薦を了承され、理事全員の合意を得た。
- ・監事は村上睦子先生を推薦。
- ・理事の名簿は五十音順とする。

## 4) 総会日程

- ・名古屋市立大学川澄キャンパスで実施
- ・地区長打ち合わせの会場を確保し、地区長のみ別場所で打ち合わせとプログラムに掲載する。
- ・教育講演は、福井トシ子氏に1時間程度していただき、意見交換をする。座長は島田真理恵理事、指定発言を北川真理子理事にお願いする。

- ・議長の選出、議事録署名人については、庶務担当理事から依頼する。
- ・活動報告書（1 ページ）以外に入りたい場合には、事前に申し出る。
- ・来年度は、日程と場所が決まり次第、ニュースレターと HP で周知する。

#### 5) 賛助会員退会・個人会員入会

- ①退会届の承認
- ②個人会員入会届 3 名承認

### IV その他

#### 1) 事務所契約更新

- ・継続することで承認された。

#### 2) 事業計画について 教育検討委員会

- ・内閣府に提出する事業計画が立っているので、理事会で方針を決めて各委員会へ伝達する。
- ・委員会として、どこを調査し結果として何を出すのかということに焦点を当て、確認しあいながら合意を得て動いていく。

#### 3) 5 日間研修の余剰金

- ・事務の賃金やこれまで本会計から出していた消耗品等、本来研修会費用として使うべきものを整理して調整する。
- ・事務局管理費の内容を整理し、委員会での事業費に移動する。

#### 4) 助産師団体連絡会の出席

- ・3 月 23 日に開催される。
- ・子宮収縮抑制剤の件について、他団体の意見が聞きたい。
- ・声を上げ続けることが大事であるので、要望を共同で出したほうがよい。

#### 5) NPO 日本助産評価機構の理事・監事推薦

- ・各団体から推薦をしてほしいとのこと。理事 2 名、監事 1 名の推薦を希望されている。
- ・理事は平澤美恵子先生と大石時子先生を、監事は小田切房子先生を推薦する。

#### 6) 次年度の委員会メンバー

- ・昨年は、理事会で委員の案を考えて、提

出した。

- ・理事が連携を取りやすいようにする必要がある。
- ・委員の任期は総会まで。総会終了後、委員会の選出も新役員で考える。

#### 7) 協会からの災害時のマニュアルの件

- ・助産師のシールは、オレンジが国際的に決まっている色であり、そのことを学生にも伝える。
- ・医師間でも好評である。近いうちに、ダウンロードできるようになると聞いている。

## 編集後記

今年の夏は、ことのほか猛暑に見舞われ、脱水症も多発いたしました。かたや、恵みの雨かと思いきやゲリラ豪雨に見舞われ、災害に遭われました地域の方々には、心よりお見舞いを申し上げます。

そのような中、新しい広報委員（ニュースレター担当）メンバーが加わり、初めての発刊となりました。手とり足とり昨年度から担当されている理事や委員の方々に指導を受けながら、どうにかここまでたどり着くことができました。快く執筆頂きました先生方には厚くお礼申し上げます。これからも、助産師教育に関する最新情報やトピックスを会員の皆様に提供できるよう発刊作業を進めてまいります。皆様からのご意見やご要望、ニュースの掲載希望がございましたら、ニュースレター担当までご一報くださいますよう、よろしくお願いいたします。

古川 洋子（滋賀県立大学）

中西 伸子（奈良県立医科大学）

西川みゆき（京都光華女子大学）

岡山 久代（滋賀医科大学）

佐藤 香代（福岡県立大学）

#### ●助産師教育ニュースレター 第 80 号

2013 年 9 月 25 日

発行人 公益社団法人 全国助産師教育協議会  
Japan Society of Midwifery Education (J.S.M.E)  
会長 島田 啓子  
〒111-0054  
東京都台東区鳥越 2-12-2 日本助産師会館 3 階  
電話・FAX 03-3866-3017  
事務局在室曜日  
火・金（10 時～17 時）  
<http://www.1ocn.ne.jp/~zenjomid>  
E-mail [zenjomid.1965@car.ocn.ne.jp](mailto:zenjomid.1965@car.ocn.ne.jp)